



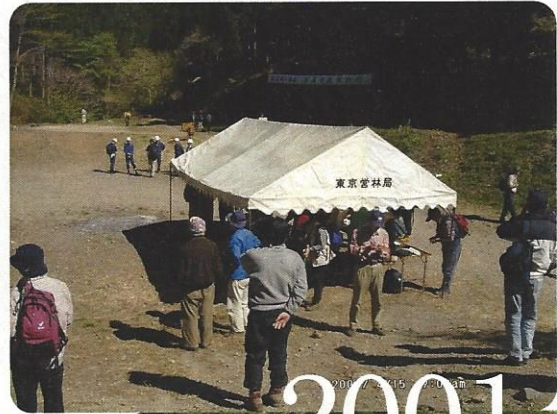
2015年
2月27日
発行

日本山岳会

「高尾の森」通信



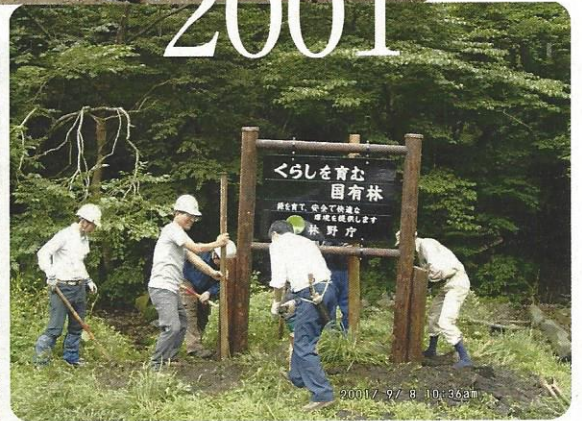
小下沢風景林の森づくり活動



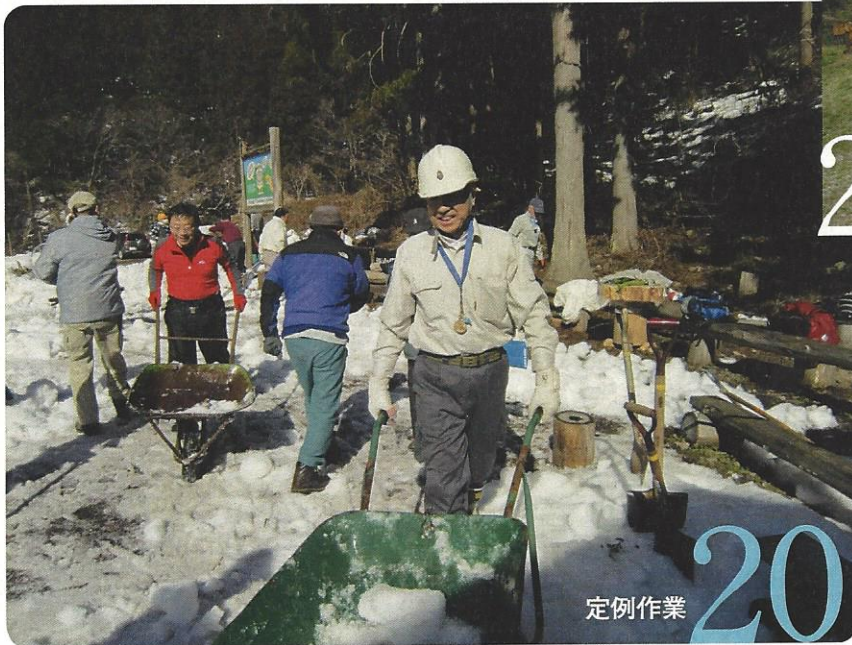
植樹祭



小屋上棟式



看板据え付け



定例作業



植樹祭

今年15周年を迎えます。会報誌1号(ホームページで見ることができます。)をみますと立ち上げ時の燃えるような熱意、苦労や考え方が解りやすく述べられています。

57号は15周年を写真等で振り返ってみます。



作業小屋の灯りをLEDにしました

目次

- 小下沢NOTE02
- 年頭所感03
- 15周年を振り返って04
- 地ごしらえ体験記06
- 法人紹介07
- 衛星電話の取扱い07
- 補助作業報告08

- 水車型イモ洗い機製作記08
- ラオス間伐報告09
- 数多くの動物たち09
- 京王親子森林体験スクール報告10
- 個人紹介コーナー10
- 植樹祭案内11
- 事務局だより12

小下沢NOTE 冬

12月定例作業



ノコ刃の目立てをする森泉さん (14.11.20)



間伐作業前にロープの結び方を全員で確認しました。



一筋縄に行かない間伐、力を合わせて「せーの!」

1月定例作業



山の神に「今年も安全に努めます」と約束しました



急斜面に力が入ります。(B班)



道具班研修資料づくり (15.01.18)



作業3時間、反省会4時間?

2月定例作業



アイスバーンの登山道に四苦八苦! 靴に荒縄を巻いて登りました。



好転にも恵まれ地ごしらえも順調! 笑顔が素晴らしい!

年頭に当たって

河西瑛一郎

私が冬になったことを実感するのは、小下沢の作業小屋に陽が当たらなくなってきたことに気が付く時です。この小屋を建設した9年前は、冬でも良く陽が当たりました。山の斜面にある樹木が成長し次第に陽が当たらなくなってきたのです。

年に20cm伸びたとしても10年で2m伸びる訳ですから、陽が当たらなくなるのも当然です。毎年の変化は小さくても、自然は確実に変わり続けています。(でも、2月の定例作業に行き、小屋に朝日があたっているのに驚きました。あの凍りついた小屋の屋根から湯気が上がっているのです。たった一月で日差しがこんなに変わるとは思っていませんでした)

15年という時間は森の成長にくらべたら、非常に短い時間です。しかし私にとっての15年という時間は非常に貴重な長い時間でした。(もともと、時には「あっという間に過ぎた15年だったなあ」と思う時もあります)

この15年間に樹木も成長しましたが、我々の会も順調に成長をして来たと言えるでしょう。参加者数は増え、資金的にも安定してきました。この15年間にあった自然災害の被災地への支援活動も活発に行われています。会員の若返りも進んでいます。

衛星電話の導入や救急活動の講習も行われていて安全面の対策にも力を入れています。

親子森林体験スクールを担当して下さっている金子さんも、子供達の成長を楽しみに頑張っています。昨年の台湾新高山登山では富士電機の大森さんが素晴らしいリーダーシップを発揮してくれましてくれました。(磨けばさらに光る素晴らしい原石(人材)が昨年は数多く発見されました)最新式のヘリコプタードローンを使っての空撮や、写真データの収取もチャレンジしようとしています。これからも長く続けてゆく強固な基盤が出来つつあります。

このようにわが会は会員の努力、協力によりかなり満足できる状態にあります。今後の更なる発展を考えると少し手を入れなければならない部

分も見えてきました。現状で我々の会に不足しているものは、会の組織だった運営ではないかと感じています。会の組織をどのようにするかは新年度の課題になるでしょう。

日本ラグビーでサントリーチームを指揮した名将エディー ジョーンズは「ラグビーの監督はサッカーの監督と違ってフィールドに出られない、観客席から選手をただ見守るだけだ。試合は選手が考え組立てて戦う。日頃から選手を鍛え、指示をされなくても各自の考えで戦う選手を育てなければ強いチームは出来ない」と言っています。この言葉は登山や森づくり活動にもそのまま当てはまるでしょう。チーフリーダーはすべての山行について行く事は出来ません。森づくりで山に入った時も同じです。会員の一人ひとりが自覚して自らを律し、自らの責任で行動をする習慣を身に着けなければならないのです。

この点我々の会の会員は、入会するまでの豊富な社会生活で培った経験から、指示されなくても、今どう動かなければならないのか、今何が不足しているかを自ら判断し行動できる人が非常に多いと思います。これは素晴らしいことです。

日本山岳会が実現のために一翼を担った「山の日」は国民の休日として来年から施行されます。新たな祝日が出来るのに際し高尾の森づくりの会には特に期待を寄せられています。

歴史を紐解けば、日本人が平地に住むようになってからまだ数百年しかたっていません。神話の時代から我々の先祖の多くは山に住んでいました。山の方が、獲物があり、水があり、日当たりがよく、安全でした。「我ら皆山の民」だったのです。我々の血の中には、長年山中で暮らした先祖の遺伝子が色濃く残っています。山に入ってホッとするのは恐らくこの先祖から受け継いだ遺伝子によるものでしょう。山の日が国民の休日として制定されるのを機に、もう一度皆が山を振り返る機会を作りたいものです。



15周年特集

今年15周年を迎えるにあたり、15年間の写真等を掲載し振り返りたいと思います。なお貴重な写真は、記録担当・召田さんから提供していただきました。お礼申し上げます。

自然の営みこそが主役 須川眞一

日本山岳会新入会者オリエンテーションの場に河西代表が現れ「山で永年楽しませてもらいお世話になった、その山に恩返しをしたい。」

森づくりの会のコンセプトはこれだど。

私はその時60歳還暦を迎えた年でした。

山に入って木を伐る、枝を打つ。

そんなことは初めての体験で唯々夢中に作業をして一日が終わる。

帰りには生ビールを一杯。唯それだけのことが面白くて面白くて無我夢中で。

そんなことの積み重ねと拵りが15年間なのでしょう。

間伐、除伐の後には爽やかに吹き抜ける風。

枝を打って見上げると聳える大木。

地ごしらえ、巻おとしだと植樹祭、何だかとても良いことをした気分。

一緒に作業するおじさん、おばさん。昨日今日出会ったばかりなのにたちまち親しく魅力的な仲間になってしまう。

とても上等な人たちの中にいる自分が、この上なく嬉しくなってしまった。

色々な事をさせてもらった。

一番印象的な事はやっぱり小屋づくりかな。森づくりの砦のつもりだ。

今は倉庫になっているロフトは最初寝床のつもりだった。

“森づくり” からいうと、15年間はほんの入り口にしか過ぎない。

50年100年という時間が創り出す自然の営みこそが主役なので、

拘わる人間はできるだけ邪魔をしないようにすることです。

その一角に「森づくりの会」が存在し続けることができれば素敵ですね。

どんどん世代交代しながら受け継がれてゆくことを期待します。

恩返しなんてとんでもない、またこの15年間お世話になりました。

感謝、感謝！



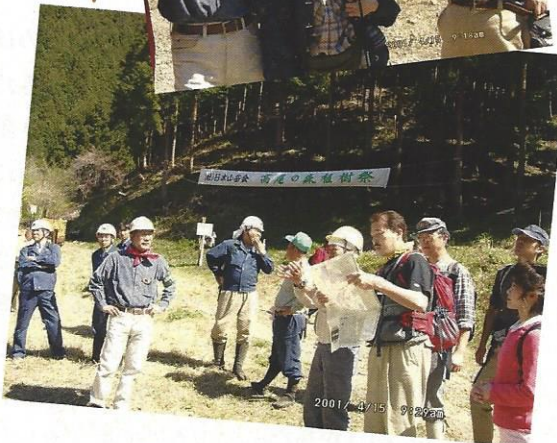
2003年紅葉観賞会で料理の腕をふるう須川さん

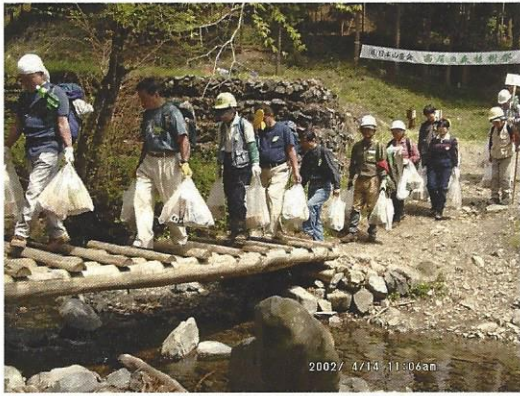
10年経った
清新第一小学校
父子キャンプ



今年1月の定例作業

初めての植樹祭
NHKの取材も入った。





2年目の植樹祭。苗木や道具の荷揚げもこの頃は一般の参加者も行ってた。



2日間に巨木の森見学、伐倒見学、枝払い体験、もみじの植樹丸太切り、火おこし体験、川遊びなど盛りだくさん!



9年目の植樹祭 参加人数は559人



2月 定例作業。20~30cmの積雪にもめげず70人の参加者ががんばった。



5月 森林の市(日比谷公園)

5年前の10周年記念パーティ



15周年記念準備委員会よりお知らせ

2015年10月3日(土)午後より、記念式典を行います。 15周年準備委員長 石井倫行
 ◆会場 高尾山ピアマウント 詳細は追ってご連絡します。

紅葉観賞会



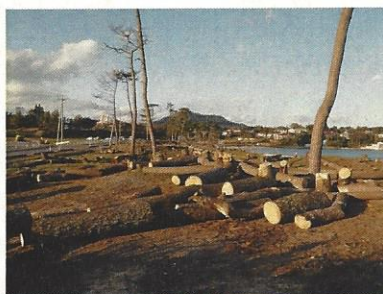
三宅島緑化再生プロジェクト



京王電鉄100周年記念事業(一丁平)



気仙沼大島震災復興プロジェクト



ラオスプロジェクト





A班サプリーダー
守永日出夫

植樹祭の準備を早目に

1月の定例作業

から4月の植樹祭に向けて植栽地の地
ごしらせ作業を開始した。2012年までは、A、B、C、

Dの4班がまとまって植栽地を確保することができていた。

しかし、2013年からはまとまった面積の植栽地確保が難しくなり、
毎年各班では適地の確保に頭を悩ませてきている。幸い今年の間伐作業
をしてきたザリクボ沢右岸スギ、ヒノキ人工林内の少しギャップができていた
場所に、約40×35mの広さでA班植栽地を確保することができた（12月道具班
の方々に周辺も含めてチェーンソーで整理して頂いた）。景信山東尾根の北側30度
前後の急斜面で、陽当たりはあまり良好とはいえないが土壌は軟らかく樹木の生育
にはよさそうである。

1月の定例作業は、植栽地内の灌木類の除去、残木の枝払い、玉切りされた伐倒
木の整理、下草刈りなどを17名の参加者が分担して実施した。作業開始前には、玉
切りされた丸太がかなりの数不安定な状態で転がっていたため作業には注意を要
したが、植栽地外の安全な場所へ落として整理することができた。来月以降
は、植栽地内の灌木伐根、作業路の作設（稜線方面側および上の横道側か
ら）、枝条の巻き立て、浮石の排除などを行い植樹祭当日には参加者
が安全に植樹作業をできるように整備していく予定である。

昨年は2、3月の大雪で地ごしらせが遅れ、臨時作
業日で対応した経験を忘れずに、早めに
準備していきたい。

ガレ場に再チャレンジ

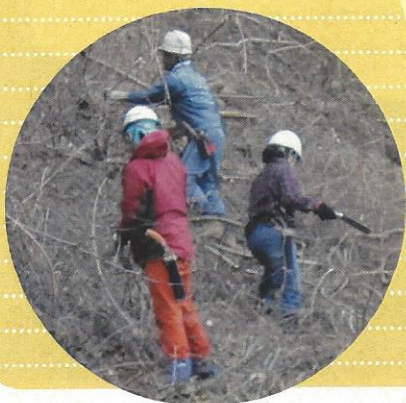


D班サプリーダー
小野正

2015年D班担当の植樹
予定地は、2015年に植樹を行った02E
地区に再チャレンジしようというものです。エリアの
大部分はいわゆるガレ場で、径10cm～20cm程度の岩石が一
面を覆っており、鍬やシャベルでは歯が立たず、さらに皆川先輩によ
るとそのガレ場は少しずつ下方に動いているとのことで、なんとも厄介なエ
リアであり、02年に植えた苗木は残念ながら壊滅状態となっています。そこにあ
えて再チャレンジしようとした意図は、植樹エリアが少なくなってきたことに加え、
02Eエリアは登山道沿いであるため景観上も安全上も整備が必要であること、さらに
他のガレ場で植樹・活着の実績がありやり方によっては苗木が定着する可能性があること、
によるものです。仁藤リーダーを中心に先輩各位のご意見も伺いながら昨年来戦略を練っ
てきたところですが、ボサ等を整理し客土をいれてポット植えにすれば何とかなるとの見
通しに至りました。

こうした方針の元、1月からイザ作業を開始したところですが、案の定足場が極め
て悪く、ズルッ！ガツッ！「ラク～！」などの連発で、安全第一最重要を再認識さ
せられました。手強いぞ(><;とは言いながら、熟練の先輩方々、パワー溢れる
中堅、疲れを癒す笑顔の女性陣など多彩なD班メンバーの奮闘によって、
初回作業で見通しが立ってきました。感謝です！さらに嬉しいことに、
02年植樹の楓が生きているのを発見☆一筋の希望が見えてき
ました。本拙稿をお読みいただく頃には準備万端整っ
ていることをお約束したいと思います。

地ごしらせ作業をスタートしました



法人会員紹介



高尾の森づくりの会 法人会員の伊藤ハムでございます。当社の社会貢献活動は、平成15年より全社的に取り組んでおります。兵庫県の西宮本社では『こうべ森の学校』の森林ボランティアで間伐作業を実施していることもあり、高尾の森づくりの会には、平成21年4月の『植樹祭』より参加しています。社内掲示板でボランティア活動の参加者を募っていますが、定例作業は5名程度、植樹祭と紅葉鑑賞会は20名程度参加しています。

伊藤ハムは、『アジアの中で最も信頼される食肉加工メーカーになる』という経営ビジョンのもと、食肉、食肉加工品、惣菜類の製造及び販売を主業務として事業を行っています。平素は、グランドアルトバイエルンをはじめ、伊藤ハム商品をご購入いただき、誠にありがとうございます。1928年4月創業者伊藤傳三が、大阪市で『伊藤食品加工業』を創業し、来年は創業90周年となります。我々の勤務場所は山手線の目黒駅と恵比寿駅の間にあり、電車からも見えますが、隣接している『日の丸自動車教習所』の方が知名度はかなり高いようです。

当社は『事業を通じて社会に奉仕する』という社是のもと、良き企業市民として、ボランティアとしてだけでなく、地域への恩返し、社員の育成、一体感を大切に社会貢献活動を持続的に推進しています。

実際の活動内容として

①食と健康の分野で1年に1回 目黒区の子供たち（幼稚園児・小学生とその家族）を対象に『食とeco わくわく探検隊』と称し、『食』と『環境』と『自然』の大切さを知ってもらうことを目的とした活動を実施しました。昨年12月はシニア層を対象として食育講座も実施しました。



- ② 地域社会の良き一員として貢献するために、毎月1回目黒の事務所周辺の清掃を実施しています。
- ③ ユニセフ活動として『伊藤ハム タンザニア支援プロジェクト』を実施し、対象商品の売上の一部をタンザニアの子ども達への栄養事業活動費として寄付しています。
- ④ 森林や河川などの自然環境保護活動として、お台場海浜公園砂浜や目黒川のクリーンアップにも参加しております。
- ⑤ 従業員の意思と責任に基づくボランティア活動を推進するために、社会貢献推進期間を設け、活動を表彰することも行っております。

私個人としては、昨年10月に高尾の森デビューをして、現在のところ間伐作業どころか皆さんと同じペースで山を登れるよう基礎体力をつけなければならないと痛感しています。日々1万歩を歩きながら、社内の食事の時は5階と地下1階を階段で登り降りしています。（日々息切れしています……）昨年の紅葉鑑賞会後は参加者全員で高尾駅の焼鳥屋で懇親会をしました。一汗かいた後の一杯は何とも言えず、この爽快感をもっと多くの従業員に浸透させたいと思っています。最後に、この高尾の森が、『多様で豊かな森林』として復元できるよう微力ながらお役にたてるよう参加していきたいと思います。

伊藤ハム 村田義和

衛星電話着信表示装置つきました 植栽地で緊急な事態が発生した時は衛星電話にかけてください!!

植栽地から衛星電話へかけるとき

- ※携帯電話がつながる場所に移動する。
- [1] 0 ボタンを長押しすると十印がでる
 - [2] この後に **870-776-468-081**

ベースの衛星電話に電話がかかると、小屋に取り付けたパトライトが点灯し誰かが電話に出ます（小屋の電源が入っている時）
海外通話可能の設定になっていないと掛けることはできません。
（たぶん海外通話可能になっているようです。テストしてみてください）
市街地からベースにかけるときも同じです。ただし固定電話の場合は違います。
最初に **010** を押し **870-776-468-081** です。自宅の電話に登録しましょう



ベースから携帯にかけるときは

- [1] まず **0081**（国際電話・日本国）
- [2] 相手先携帯番号の最初の0（ゼロ）を抜いてかけてください。

例 090-1234-5678 なら 0081-90-1234-5678 です。
番号を全部押したら電話機左側の青いボタンを押してください。

ツル性植物との格闘、 また植栽地の全体像把握

リーダー 白井聡一

「高尾の森づくりの会」が目指している針広混交の森づくり活動の一つとして、毎年落葉広葉樹の苗木を植樹しています。2001年にスタートした活動も満14年になり、古い植栽地では立派な広葉樹林が出来上がりつつあります。

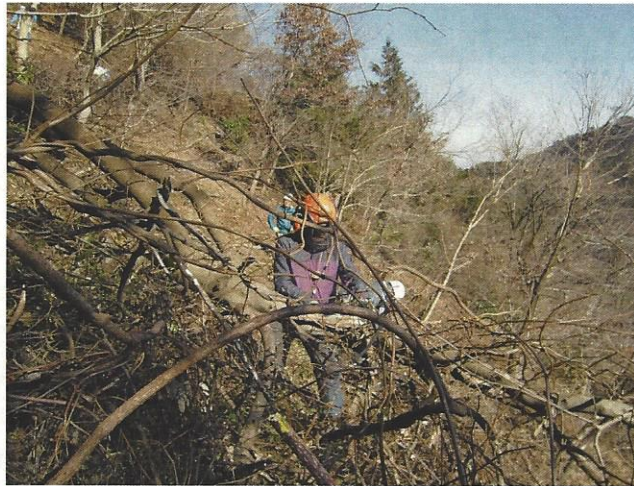
苗木を植樹して数年は、熱中症と戦いながら苗木の成長を妨げる雑草や灌木を取り除く下刈り作業を行っています。3、4年経ち苗木が雑草の背丈を超えたころには、だんだんこの作業は必要がなくなります。というよりも、毎年植樹をして年々下刈り面積が増えるため、手が回らなくなったというのが本音かもしれません。このように年を経るに従い苗木は樹木に成長しますが、すべてが順調というわけではありません。ツル性植物に絡まれたり、林縁の高木の日蔭となり成長が妨げられたりします。このような局所的な阻害要因を取り除くことを目的として、2012年から補助作業の取り組みを始めました。

2014年4～12月の活動は6月に雨天中止となりましたが、8回行いました。延べ80人、平均10人の方に参加いただきました。2002～2007年植栽地でツル伐り、ヤマグワの除伐、枯死木の処理などを重点的に行いました。



この活動の狙いとするところを今一度振り返ってみますと、

- ①植栽地を立派な森に育てるために下刈りが終わってからも見守り続け、必要ならば手を加えてやりたいと思います。
 - ②活動メンバーの世代交代が進み古い植栽地を知らない人が増えています。このような方に活動領域全体を知ってもらう必要があります。
 - ③植栽地の中に入り数年後、十数年後の姿を思い描き、今何かしてやらなければならないかを考える力を身に付けたいと思います。
- 以上今後の活動もよろしくお願いします。



水車型イモ洗い機 製作記

清水巖

清水さん(左)と福井さん(右)

2,3か月前のある日、ものづくり班に属する森泉さんと私に小下沢の流れを利用したイモ洗い機を作ってほしいとの依頼があった。サトイモは11月22日の法人のもみじ鑑賞会の際に芋煮にすることだ。都会育ちの私は作った経験はもちろんない。

途方に暮れたが森泉さんは子供のころ農家育ちで詳しい。高尾の森の間伐材と竹などを使って素早く籠状の1号機を作り上げた。沢で試運転してみたが回らない。やはりこの流れでは羽なしでは無理だった。

2号機は2,3cmの羽を8枚付けた。もちろんよく回った。

私たちのイモ洗い機づくりは耳目を集め多くの人が冷やかし半分興味を示した。その一人が福井さんだ。

彼も幼少時作ったことがあるらしく3号機は彼の助言に基づいて作った。今度は幅広の板6枚を側板に打ちつけ、その際羽が10cm以上になるようにした。ちょうどサトイモも届いたので試験。1時間後には綺麗に皮がむけた。成功だ。

本番でもこれら3機のイモ洗い機が本領を發揮し美味しい芋煮が出来上がることを願っている。



日本ーラオス友好の森プロジェクト事業 ラオス大学生等と試験間伐を実施!

馬場隆博

高尾の森づくりの会は、国土緑化推進機構の直接事業として、「日本ーラオス友好の森づくり事業」を、ラオス国農林省普及促進局農業技術サービスセンター（以下「ATSC」）をカウンターパートにして、2011年度からこれまで4回の植樹を行ってきた。

会では、これまでの活動に加えて本年度からは、日本国が平成7年度から5か年間で支援協力して植栽した人工林を試験間伐し、ラオス国の森林再生、ラオス大学の学術、地元民の振興に貢献したいとして、ラオス国農林省とラオス大学の協力を得て、1月26日～29日にかけて現地での活動を行った。

4日目の29日は、森林局、普及促進局、そしてラオス大学林学部を表敬訪問し、今後の取組について意見交換を行った。ラオス国農林省普及促進局からはこれまでの17haの植樹活動について、会に対して感謝状が贈呈された。森林局からは、将来も継続した活動の協力要望と、活動するに際して政府としての協力表明があった。また、ラオス大学からは、今回は学生にとって初めての貴重な実習となり、参加者全員が深く感謝しており、大学としては授業の実習として継続的に取り組んで欲しい等の要請があった。

また、ラオス国の伐採方法や伐採の機材、作業の安全文化について、今回の経験で課題が散見されたことから、伐採時の危険性の情報共有を図ると共に、日本の伐採方式、安全文化について今後継続して情報提供や実地研修を通じて、これからのラオス国における伐採作業の安全確保に向けて取り組んで行く必要があると認識した。この作業安全に対しては、ラオス国側も日本方式を学び、安全第一を基本に作業性の向上面からも真摯に受け入れたいとしていることから、関係機関の理解と協力を得ながら継続実施していきたいと考えている。

第5回 ラオス展示林造成プロジェクト植樹ツアー

2015年7月4日(土)～9日(木)

作業場所 ● ラオス国ビエンチャン県バンビエン地区

作業内容 ● 郷土樹種1,000本を植樹

(ラオスの村人、学生など100人と共同で植樹祭を行う)

集合 ● 7月4日夕刻までにビエンチャンのセンタワンリバーサイドホテルに集合

解散 ● 8日解散、夕刻ビエンチャン空港発→ハノイ乗継

9日早朝日本着 (オプション：希望者で古都プアンパバーン観光を企画)

募集人数 ● 30名

費用概算 ● 10万円 (航空賃、滞在費、食事代を含む)

申込み締切り ● 5月20日

申込み先 ● 笹野典子 sasano-hoshi@nifty.com

TEL/FAX 090-4453-2670



活動は、初日に間伐の必要性和間伐作業のプレゼンを行った後、間伐予定地の標準地で間伐作業デモンストレーションと学生による体験間伐(実習)、翌27日は間伐実習と午後は標準地の選定と選木調査、28日は2011、12年度植栽地の見学、学生、ATSC職員との意見交換の順で、ラオス大学の学生(先生含め11人)、ATSCラッタナ所長と職員の方々(5人)や地元民(5人)に、日本人(本国、ラオス在住：9人)総勢30人で、実施した。

高尾の森に 棲息する 動物たち

山崎勇さん講演

2014.12.01日本山岳会多摩支部自然保護委員会主催で、「高尾に棲む動物たち」のテーマで講演会が行われました。我々のフィールドにはイノシシ、ハクビシン、アナグマ、リス、シカ、タヌキなど数多くの動物たちが生き生きと生活している様子が捉えられ多くの参加者が興味深く耳を傾けていました。今後この動画をホームページに掲載できればと思っています。(松川)



京王親子 森林体験 スクール



スクールを卒業された方々を 温かく迎えていただきたい!

金子春枝

「ちゅげー。ちゅげー。」「先生。雪、雪。」3歳のクラスの子ども達は園庭側の窓から離れようとせず、空からしきりに雪が舞い降り景色がどんどん変わっていく様子に興奮を隠せない。雪が降ることを無邪気に喜ぶ子ども達に目を細めながら、私は前日から天気予報の雪マークに通勤時の不便さや寒さばかり考えていた事を反省した。

親子森林体験スクールに参加して下さった皆さんは、どんな気持ちで前日を過ごして当日を迎え、そして来て下さっていたのだろうか。

高尾の森親子森林体験スクールは2008年から始まった。この年は北京オリンピックがあり、「ゲリラ豪雨」が流行語となった。異常気象が気になりだし、自然環境を見直すきっかけとなった年だった。これまでの7年間、このスクールは多くのリピーターの方が支えて下さった。

年末に京王広報部の方から2015年度から「京王アカデミー」という名前に変わり、コンセプトも初めて参加される方達の対象とし、「学びのプログラム」として自然や森林に触れ、学ぶきっかけを提供するイベントにしたいとお話を頂いた。

活動内容としては春・秋と行っていたが、春(4・5・6月)だけの開催とし、リピーターとして来て頂いた方には高尾の森づくりの会に入会の案内を出し、引き続き高尾の森づくりを一緒に行って行けたらと思っている。

そこで皆さんにお願いがある。これからもこれまで同様に親子スクールを見守って頂き、また親子スクールから高尾の森づくりの会に入会した方達を仲間として温かく受け入れてもらいたい。



さあ！
みつけるぞ!!



さあ！
どこに何か?

サワガニ
つかまえた!



2014年で、ムスメが高尾の森親子スクールに初参加してから5年目になった。小学校5年生で植えた時は弱々しかった苗が、2010年に鹿に枝を食べられても、2011年のあの大災害も気にすることなく、2014春は、カーポートが潰れる程の大雪だったのに、負けること無く、自分の力ですくすく育っていた。その間に、ムスメも高校生になった。しかし、多くの方々が温かく見守っていたことにも、いつか気がついて欲しい。森の木々だって、森の道や道具を準備してくれる茂出木さん達、怪我に備えてくれた中ジィさん達、盛り上げてくれるマーブルさん(もっとお名前挙げたいですが、紙面都合でご容赦を)、多くの方々の支えがあったこと。そして、人だけでなく、多くの生き物にも囲まれることで、飲み水や空気ももらって、みんなは暮らしています。

さらに、今回の秋の活動では新たな愉しみが出来ました。甥っ子のところに赤ちゃんが生まれたので、大きく育て!と願掛けしました。いつか、何十年後、子や孫を連れてハイキングにでも来て欲しい。

次にムスメ達が来た時、枯れて無くなっていないようにと、毎年植えていたが、スクールのみんなで植えている利点に思い当りました。名札が無くなっていても、誰かが植えた一本でも残っていれば、それもムスメが植えた苗と同じことだと感じたからです。その為にも、このスクールの活動がずっと続きますように祈っています。

何十年後、子や孫を連れて ハイキングにでも

北島洋二

会員紹介シリーズ

会員数が200名を超える我が会
あなたは何人の人をご存知ですか？
一人でも多くの方を知っていただくとの
思いです。ずっと継続していきますので
ご協力をお願いします。
今回は定年後鹿児島県喜界島へ戻り
賛助会員としてご協力いただいている
「吉田忠弘さん」の登場です。



自己紹介 吉田忠弘68歳。昭和22年南溟の小島喜界島生。平成19年末河西代表とのご縁で日本山岳会入会と同時に高尾入会。定例作業日には戸塚駅前でご飯をかき込み始めで一路高尾へ。積雪斜面や炎天下ガレ場での作業、植樹祭、三宅島熔岩流海岸での植樹、粟島竹取物語……僅か1年半でしたが『高尾』の記憶は今も鮮烈です。平成21年夏亡父の遺志を継ぎ『みかん』の再生増産シマ興しを図るべく帰郷。吉田家祖先が薩摩からの帰途暴風雨で漂着した無人島から持ち帰ったものが突然変異したものと伝承があり、芳香無核抗がん作用等機能性成分を多く含む特殊な蜜柑です。

近況報告『みかん』20本植樹。結実まであと2年。故叔父の蜜柑園も引継ぎ剪定施肥草刈と「高尾」の延長です。一方で島の歴史を勉強中。発掘中遺跡の主な出土物は越州窯系青磁、初期高麗青磁、滑石製石鍋、開元通宝、崇寧重宝、青銅製鋤先、甲冑用金箔笠鞋、製鉄炉跡、焼骨再葬、伸展葬、上顎中切歯シャベルが深い人骨等々。これらから見えてくるのは喜界島が中国・朝鮮半島を含む古代中世環東アジアの交易交流の拠点の可能性です。大宰府出先機関説もあります。現在国指定史跡準備作業中で関連検討委員会に参画。今後は『花良治みかん』と『古代中世喜界島の歴史』の二足の草鞋で行きます。『高尾』の皆様「安全第一」益々のご活躍を祈ります。『森の思想が人類を救う』～梅原猛～

第15回 植樹祭のご案内

「高尾の森づくりの会」恒例の植樹祭を下記のとおり開催します。
ご家族・友人お誘い併せの上ご参加下さい。
春の一日を精一杯楽しみましょう。

開催日：2015年4月12日(日)

集合時間：9時10分

開会式：9時15分(小雨決行)

集合場所：小下沢ベース

(八王子市裏高尾町小下沢国有林 高尾の森小下沢ベース)

アクセス：「高尾駅北口」から「小仏」行きバス(京王電鉄バス)で「日影」下車(乗車時間約12分)→バス停から梅林経由、小下沢の溪流に沿って約40分のウォーキング(案内板あり)

行き 「高尾駅北口」発 * * (*は臨時便)
バス時刻 7:12、7:32、7:52、8:12

帰り 「日影」発 「高尾駅北口」行き
バス時刻 14:13、14:43、15:13、15:43

持ちもの：ハイキングの服装とお弁当、作業用手袋、マイカップ

参加費：一般500円、大学生200円(法人会員、高校生以下は無料)

募集人員：200人(1グループ・法人10人以内でお願いします。)

- * ヤマザクラ、ケヤキ、モミジなど15種類600本の苗木を人工林ギャップ地に植樹します。
広葉樹の混じった混交林を育成し「多様で豊かな森林」の復元を目指します。
- * 車の方は、小下沢入り口の貯木場に駐車の上、そこからは徒歩でおいでください。(30分)
- * 植樹場所はベースから徒歩30分～1時間の登山道歩きです。
- * 植樹が終わったら自由解散です。ベースでは、トン汁を用意してお待ちします。
丸太切りなどの体験コーナーも設けています。
- * 小雨決行です。曇天の場合は雨具もお忘れなく。荒天時は中止。
(中止の場合は、朝5:00までにホームページ: <http://JACtakao.net> に掲示します。)

申し込み先

「高尾の森づくりの会」事務局 龍久仁人

メール: JACtakao@JACtakao.net

FAX: 048-254-2852

はがき: 〒332-0031 川口市青木1-21-7-402

(定員になり次第
締め切りますので
お早めに。)



事務局からのお知らせ

主な作業・行事記録

12/6 (土) 森の研修会(木工)	20人
12/13(土) 定例作業(間伐)	104人
1/10(土) 定例作業(間伐・地ごしらえ)	82人
1/25~30 ラオスプロジェクト間伐ツアー	133人
2/14(土) 定例作業(間伐・地ごしらえ)	88人

- 集合場所：高尾森林事務所前広場
- 集合時間：定例日は9:00までに集合して順次マイカー相乗り
でベースへ移動します。(ベース9:20集合)
- 参加連絡：事務局/龍久仁人あてご連絡下さい。
E-mail : ryu-kun@cablenet.ne.jp 電話：090-4373-1555 はがき：〒332-0031 川口市青木1-21-7-402
- 定例作業への体験参加を希望される方は、上記事務局あてに申し込み(住所、氏名、電話、メールアドレス記載)の上、
集合時間前までにおいでいただき、受付を行ってください。

今後の主な作業・行事スケジュール

3/7 (土) 森の研修会(自然観察)	第3(土)・毎週(木) ものづくり・ 小屋管理班作業日
3/14(土) 定例作業(地ごしらえ)	第1(水) 生態調査班作業日
4/4 (土) 臨時作業(地ごしらえ)	第3(日) 機械作業班作業日
4/11(土) 定例作業(地ごしらえ)	
4/12(日) 植樹祭	
4/18(土) 臨時作業(手直し)	
5/9 (土) 定例作業(下刈り・つる切り) 作業後総会	
5/9~10 緑の感謝祭フェスティバル	

第3(土)・毎週(木)
ものづくり・
小屋管理班作業日
第1(水)
生態調査班作業日
第3(日)
機械作業班作業日

入会者紹介 11月以降の方が入会されました。
岩田英一郎、徳永拓之、永井有希、鈴木忠男、
保谷教子、保谷藍、グエンホアンヴー、明智清昭

**森の研修会に
参加しよう** テーマは冬芽などの自然観察。
生態調査班のメンバーがフィー
ルドを案内します。

高尾の森づくりの会 春季イベント参加者募集!!



第14回 三宅島緑化再生プロジェクト

日程 ● 2015年5月22日(金)~24日(日)
(5月21日(木) 22:00 東海汽船乗船)
作業場所 ● 三宅島阿古、坪田、神着地区
作業内容 ● 被災地の植樹、園地整備、下刈り作業
参加費用 ● 27,000円
(往復の船賃、宿泊代、島内バス代を含む。)
申込締切 ● 4月15日
申込み先 ● 渡辺美夫 watanabe-y@c3-net.ne.jp
TEL/FAX 045-893-1952

第9回 気仙沼大島震災復興プロジェクト

日程 ● 2015年6月19日(金)~22日(月)
出入り自由、作業無しでも歓迎。
作業場所 ● 気仙沼大島
作業内容 ● 被災マツ林の伐倒、間伐、遊歩道整備
参加費用 ● 交通費自己負担
宿泊費は、民宿1泊当たり6,500円~、
申込締切 ● 5月20日
申込み先 ● 小木曾裕子 yuko.ogiso@konicaminolta.com
TEL/FAX 042-342-4673(日比野宛)

2015年度 会費・保険料納入のお願い

新年度の会費・保険料の納入をお願いします。保険の一括加入手続きを3月中に行ないますので、納入期日は3月20日まで必着をお願いします。

一般会員3,500円、家族会員2,500円、大学生1,500円(以上ボランティア保険500円込み) 賛助会員3,000円、機械作業登録者5,350円(又は4,850円) ボランティア保険とスポーツ保険1,850円の両方に加入することをお奨めています。

●納入方法は、郵便振替をご利用下さい。

*口座記号番号：00160 = 3 = 0688239
*加入者名：日本山岳会「高尾の森づくりの会」

●銀行振込も可能です。

*銀行名：ゆうちょ銀行 〇一九(セロイチキュウ)店
*口座番号：当座 0688239 ニホンサンガクカイ タカオノリツクリノカイ

期日以降に入金された方は、暫くは行事保険対応となりますのでご留意下さい。

会費納入が滞り連絡のない方は退会とみなし会員名簿の整理をさせていただきます。

編集後記

皆様のご協力で57号を発行することができました。お礼申し上げます。常に偏ることなくバランスを心がけていますが取材には限りがあります。皆さんのグループ(作業・専門班など)で活動された際は必ず写真を送っていただけますと助かります。よろしくお願いします。(松)

